

投信フォーラム in 盛岡

投信フォーラム2012 in 盛岡(投資信託協会、全国地方新聞社連合会、岩手日報社主催)は9月22日、盛岡市の盛岡劇場で開かれた。「あなたのライフプランに投資信託 考えてみませんか?」をテーマに、ファイナンシャル・プランナーの講演などを行い、負担増が予想されるこれからの社会で、有力な資産運用の一つとして注目される投資信託の基本を解説した。作家の高橋克彦さんの講演も行われ、約150人が熱心に聴講した。



特別講演 高橋克彦氏(作家)



高橋 克彦氏
1947年、釜石市生まれ。1983年、「写実殺人事件」で江戸川乱歩賞を受賞しデビュー。「総門谷」で吉川英治文学新人賞、「北斎殺人事件」で日本推理作家協会賞、「緋い記憶」で直木賞、「火狼」で吉川英治文学賞を受賞。「炎立つ」「時宗」はNHK大河ドラマ原作となった。2002年、NHK放送文化賞と岩手日報文化賞を受賞。浮世絵研究者としても有名。盛岡市在住。

「倭は本来「和」だった
ぼくらは、日本語というものを、なぜその言葉が生まれたのかをほとんど考えず、割と安易に考えて使っている。なぜ山の車と書いて「だし」と読むのか、黄泉と書いて「よみ」と読むのか。

日本語と漢字の間には、合理的で密接な関係がある。漢字の無かった時代、日本語は古来の言葉を使っていて、その言葉と同じ読み方をする古代中国の漢字を当てていた。中国で「和」という文字を使っている言葉を探していくと、平和、親和、柔和、温和、和という言葉が重ねられた熟語は、和みというか人に對する優しさのようなイメージで埋め尽くされている。国譲り神話の時代までさか

震災時に見えた心の宝

「わ」という呼び名に申しい意味合いの「倭」を当てたのだ。しかし「わ」とは本来「和」だったのだ。「倭人」は「和人」なのだ。これは大和朝廷の成り立ちから推測できる。大和政権が治めていた「和」の国を征服した朝廷側が、数ある国を統合し「大きな和」

の国をつくった。それが「大和」だからだ。「輪」も同じ「和」に由来するのだ。ストーンサークルという遺跡が東北にあるのも偶然ではない。中心に力を集め、新たな力を生み出す「輪」。肩を組んで一つの輪をつくる。つまり人のために尽くすということ。それもすべて東北の人たちが持つ和の心から生じたものなのだ。

「和の心」の原点は東北に
東日本大震災で三陸が津波に襲われた。親、兄弟を亡くしながらも「自分よりつらい人たちのために頑張る」と言った中学生。大変な目に遭いながらも他者を思いやる三陸沿岸の被災者。その心の優しさ、美しさはメディアを通じて世界に伝えられた。津波があったことで、世界が日本人が持つ優しさのようなものに気付いたのだと思う。そしてその原点というのが東北から生まれたのだというのを認識してもらいたい。「和の心」というのは東北人が、本当に苦しむ時に最後に出てくる、心の中にずっと押し込められている宝なのだ。

講演 和泉昭子氏(生活経済ジャーナリスト、ファイナンシャル・プランナー)



和泉 昭子氏
横浜国立大学卒業後、出版社・放送局を経て、フリーのキャスターに転身。NHKを中心に、ニュース・情報番組を担当。1995年CFP®(ファイナンシャル・プランナー上級資格)取得後、現職へ。メディア出演や講演活動、個人相談などを通じて、マネー・キャリアの情報を多数発信。早稲田大学大学院ファイナンスMBA。2010年、金融庁「金融規制調査会」委員。2011年、日本証券業協会「税制懇談会」委員などを務める。

負担増への備え必須に
昔は歳をとるにつれて給料が上がり、会社を辞める時にはたくさん退職金をもらえ、60歳から年金が支給された。しかし、これからは保険料や税金で手取りが減り、景気の影響で年収が毎年上がるとは限らない。退職金もあてられず、公的年金の支給開始年齢も引き上げられる。さらに、今後の消費増税や復興増税など制度の改正により、統計では2010年に年収562万円だった人は、16年と同じ額を支給されたとしても手取りで40万円くらい減ると試算がある。

運用方針決定が第歩
投資信託の魅力は「少額入金で分散投資が可能」「預金以上の利回りが期待できる」「少額の手間を省ける」こと。金融機関の破たんリスクに強

生活防衛に投資信託活用を

た教育を受けさせたり、老後の安心がかなえられない社会になってきた。こうした中で、生活を守るための資産運用の手段の一つとして投資信託が有効だ。

まず、エリアについては国内か海外か、海外でも先進国か新興国かという違いは違ってくる。選ぶうえで一つのヒントになるのが人口構造。生産年齢人口(15~64歳)が従属人口(0~14歳、65歳以上)の2倍以上あると経済が発展すると言われている。資源のある国も注目されている。

最後に、分散投資は過去の運用実績のチャートを見るのが大切。インデックスファンドは実績がベンチマークと連動しているのはいいファンドと言える。アクティブファンドは、負け越している期間が多いのはいいファンドとは言えない。

いれば人生が開けたが、これからは自分で対策を考えていかなければならない。生活防衛に投資信託活用を

選ぶ手順は①どのエリアに投資するか②何に投資するか③運用のスタイル④分配の方針を決めていく。

判断材料は過去の実績で
投資信託は過去の運用実績のチャートを見るのが大切。インデックスファンドは実績がベンチマークと連動しているのはいいファンドと言える。アクティブファンドは、負け越している期間が多いのはいいファンドとは言えない。

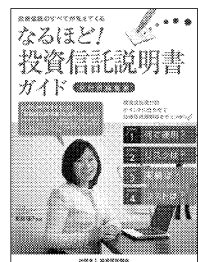
増税や年収減に負けないマネープランに投資信託を活用して

アップダウンも激しいことを覚悟して臨まなければならぬ。次に何に投資するかだが、国内外の株式、不動産、債券、商品と色々なものがある。バランスを取ると値動きがマイルドになる。

あなたのライフプランに「投資信託」、考えてみませんか?

時間を有効活用してリスクを小さく。
【資産の分散】【長期の保有】【時間の分散】
投資信託はあなたの資産運用のお役にたちます。

ガイドブックプレゼント (各1冊セット) 無料



ご希望の方は、投資信託協会ホームページからお申し込みください。ハガキの場合は郵便番号、住所、氏名をご記入の上、下記までご請求ください。(お届けまで2週間程度かかる場合があります。)

携帯電話はこちら



〒1103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1
東京証券取引所ビル6階 (社)投資信託協会IT係
※いただいた個人情報は、本ガイドの送付のほか、当協会が開催する講演会やセミナーのご案内に使用することがあります。

投資信託協会ホームページで

新連載 「著名人が語る・お金のなし」が始まりました。

新機能 投信総合検索ライブラリー
・交付目録見書の閲覧
・基準価額の検索やリターン計算
・取扱販売会社や販売会社手数料の検索など

【投信総合検索ライブラリー】

